

# SUN たなと。

大好きなここ乙原で  
いつか地元野菜を使った  
カフェを開くのが私の夢



永井 向日葵さん  
Himawari Nagai 18 乙原

「だんだん減っていく地域の行事。このままなくなっていくのかな」そんな想いから、自らテーマを決めて発表する高校の課題で選んだのは「過疎化地域の復興」。まちの課題に正面から向き合おうと、志手原校区地域づくり協議会に参加。地域の未来を描く計画づくりに約8カ月携わった。「まちの将来を見据えて、必死に今を変えようと動いてくれている大人がたくさんいる」。知らないことを知る毎日だったと振り返る。

中でも驚いたのは、今後の農業について話していたときのこと。「5色のアスパラガス売り出そうとか、ご年配の方がすごく楽しんで夢を語るんです。ダメなことを嘆くのではなく、夢のあるこれからを考える。そんな姿を見てると私たち若い世代はもっと夢を描けるんじゃないかと刺激を受けた」と目を輝かせる。「まちづくりの課題だけを並べると若い人はさらにとっつきにくくなる。前向きなことを共有しながら考えていくことが大切」と話す向日葵さんはいつだって前を向く。

地元乙原への想いをカタチづかったのは、幼い頃からの地域とのふれあい。「小学1年生のときから、学校まで片道1時間歩く、その時間が大好きだった。朝、近所の人に出会っては、くわの実をもらったり、いろんな話をしたり。

大きくなったからねって、親以外にも自分の成長を知ってくれる人がいるってすごくいい環境だと思うんです」と乙原への愛情が、終始笑みとともにあふれる。

高校の課題のまとめでは、住民が誇りに思える地域にした上で魅力を発信していくことが大切と括弧。そんな地域になるようにと向日葵さんが夢みるのは、地元野菜を使ったカフェを乙原でオープンすること。「実現できる夢は描いた夢の数パーセントかもしれないけど、想い描くからこそ、その数パーセントがある。可能性という間口を狭めないことと大切さを教えてくれたのは、ずっと地元を大切に活動してきた父。私も乙原が元気であるようにできることをしたい」と夢を語る向日葵さんの真つすぐな眼差しに、乙原の可能性をみた。

向日葵ちゃんがいることで、若い子の声を聞く大切さを考えるきっかけになりました。普段大人は子どもの意見を聞く意識はあまりないと思うんです。会で彼女が中学生の意見を引き出してくれたことで、新たなつながりも生まれました。彼女の存在はとても大きかったです。



志手原校区  
地域づくり協議会  
事務局  
事務局長  
杉谷 公江さん



1



2



3



4

## ぼくたちの学校は、お城だった？！



149年前、明治5年6月開校。三田で一番長い歴史を誇る三田小。そこで行われている「ふるさと学習」の一つに、6年生で実施する「三田陣屋のかまど跡見学」がある。三田小だからできるこの「ふるさと学習」の様子を覗きながら、歴史ある学び舎で過ごす子どもたちに「自慢」を語ってもらった。

### 待ちに待ったこの日

「6年生になったら、すごいものが見られるらしいよ。ーずっと楽しみにしてきたこの日がついにやってきた。「かまど跡」を見ることができた日だ。

現在の三田小の場所には、かつて三田城があった。1633年以降は、領主となった九鬼氏が城を持ってなかったため、三田陣屋と言われたらしい。校長室あたりが陣屋の中の「御台所」だったそう。「ここで九鬼さんのご飯を作っていたんだなあ」。今もまだ、かまど跡に残る炭を見て、一気にタイムスリップした気分になった。

### 尊敬する偉人に続け

この「ふるさと学習」は、2年生の「昔ウォーク」に始まり、3年生は「生活体験学習」、4年生は「柿取り」、そして6年生の「かまど跡見学」と継続して行われる。

### 日常は「特別」

毎日通うわたしたちの学校には



当たり前だと思っていたことが「実はすごいことなんだ」と気付いた。でも遺跡があるだけじゃない。この歴史をつないできてくれた人たちがいるから学ぶことができる。これですごく「特別」だなと思った。だから今度はわたしたちが、この歴史を後輩や地域の人、家族のみんなにも伝えていきたい。

毎年ふるさと学習を実施している地域の皆さんに想いを聞いた

三田の歴史を少しでも知り、子どもたちが大人になったころ「三田で育つてよかったな」そう誇りに思い、三田を愛してくれたいです。



NPO 法人 歴史文化財ネットワークさん

- 江戸時代の[三田古地図]。「僕の家はどこかな?」今と変わらない道も多く、一気に親近感がわいたようだ。
- 昭和57年に発掘された[三田陣屋のかまど跡]を見学。遺跡として校長室床下に今も大切に保存されている。
- 三田陣屋の模型を見ながら「校長室の下は台所」「九鬼さんがいた御居間は今のグラウンド辺り」と教わる。
- 三田小の自慢は?との問いに「とにかく仲が良いこと!」と笑顔で話してくれた計画委員の6人。